三条油小路町絵図より鋳物師釜屋庄三郎方

本能まちづくりニュース

第５４号　平成２２年5月1日発行

本能まちづくり委員会
委員長　杉下浩教

E-mail:　post@honnoh.net
URL　　http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。

親子で染め隊〔最終章〕　のれん完成

２月 20 日（土）「親子で染め隊」のれん完成お披露目会が高倉小学校のランチルームで開催されました。12 月の第４回ワークショップで染めたのれんが仕立てられ、お初お目見えです。

ワークショップメンバーの児童、保護者、地域の方など総勢 70 名近くが集うお披露目会となりました。スマイル 21 の堤委員長からは「1 回限りではなく継続した取り組みであったこと、子供たちが本物に出会えた点がよいワークショップでした」、高倉小学校の林校長先生からは「今日は皆さんとてもいい笑顔です。それは、のれんが仕上がった充実感と久しぶりにワークショップの仲間と会えたうれしさがあるからでしょう。もう一つ、本物に出会えたというこの体験を忘れないでくださいね。」との挨拶を賜りました。ワークショップ主催者のまちづくり委員会杉下委員長から「いろいろな事があって今日を迎える事ができました。この取り組みは本能（学区）という染の職人さんがたくさんおられる地域だからからできた事です。誰一人欠けてもこののれんはできなかったでしょう。みんなで力を合わせて作り上げたのですから今後も“一人はみんなのために、みんなは一人のために”の気持ちで学校生活を送ってくださいね」とまとめられました。

続いて立命館大学乾ゼミに進行をバトンタッチしてお披露目です。まず和室の畳の縁にリボンを渡した“あみだくじ”をたどっていって発表の順番が決まりました。ゼミ指導教授の乾先生から「まずのれんをしみじみ見てください。そのあと他の人にわかるように、のれんの説明を考えましょう。そして名前を決めてあげましょう」と説明があり「説明といってもこののれんの自慢やすばらしいと思うところを PR したらいいよ」とアドバイスくださいました。班ごとに分かれてのれんにご対面。学生リーダーを中心に「かわいいー。なんて名前がいいかなー」と盛上がる班あり、「誰が発表する？？」と悩む班あり。わいわいがやがやと過ぎました。順にお披露目が始まりましたが、いずれも気持ちのこもった作品でいつまでみても見飽きません。（各班のれんについては次ページをご覧ください）

のれんの染め工程、仕上げを担当した印染工房土山のまちづくり委員土山さんから「皆さんおめでとうございます。できあがったのれんはどれもすばらしく、この体験を通して僕らが逆に“手のり”のよさを皆さんに教えてもらいました。二度とできない風合いで、仕立て中も手を止めて眺めている時間の方が長いくらいでした」とお話がありました。

ヒートアップしてきたので一旦外へ出て、小学校の玄関へのれんを掛けて記念撮影。再度部屋へ戻り、のれんを掛ける APA の小島理事長とグランドールの大木理事長（木賊班）から「すばらしい地域に住んでいると思います。こののれんをきっかけに地域とのつながりを深めていきたい」と挨拶がありました。その後思い思いに語らいの時をもち、「3 月 21 日の本ものに出会える日には、ぜひ実際のれんの掛かっている姿を見にいきましょう」と谷田まちづくり副委員長のまとめの言葉で締めくくられました。

本物の技に取り組みのれんを完成させる事をとおして、絆を感じ地域への思いを深めるワークショップになったのではないでしょうか。（あ）

「染め隊」のれんの紹介

班名	タイトル	“ひとこと”	掛けるところ
浅 葱	ピカピカの春	生き物、植物で春を表した	アベルティ堀川東（山田町）
秋 桜	世界	虹でつないだ空→陸→海の生き物を表す	グランドール四条烏丸（空也町）
琥 珀	一日の空	鳥や飛行機が飛び、雲から雨へ、虹がでる空の動き	エテルノポッソ（空也町）
牡 丹	黄色いろいろ	雷、バナナ、チーズなど黄色のものを集めた	APA ｶﾞｰﾃﾞﾝｽｸｴｱ四条烏丸（蟷螂山町）
若 竹	高倉を囲む山	高倉小学校を囲む五山（送り火）	高倉小学校
木 賊	春夏秋冬	蟷螂山町を表す図と四季の移り変わりを表す	ファヴィエ四条西洞院（蟷螂山町）
茄子紺	みんなでしりとり ☺にこにこマーク	バナナ→ナス→スイカ・・・“しりとり“で図柄を表現	本能ギャラリー（本能館）

伝統産業の日2010 「本ものに出会える日～おいでやす染のまち本能」

本能まちづくり委員会は、平成 12 年以来、11 月の「まちなかを歩く日」（昨年「まちなかを歩くウィーク」と改称）に「おいでやす染のまち本能」と銘打った多彩な取り組みを、続けて行ってきました。平成 14 年、京都市が春分の日を「伝統産業の日」と制定し、京都市の協力要請を受け、学区の伝統産業の活性化と地域振興のため、翌 15 年から毎年春分の日にも「本ものに出会える日～おいでやす染のまち本能」を開催しています。この年 2 回の「おいでやす」は、いまや本能学区の行事としてすっかり定着しています。今年の伝統産業の日に行われた「おいでやす」について、昨秋からまちづくり委員会に参加している立命館大学 4 回生の中谷芽衣奈さんにレポートしてもらいます。

去る 3 月 21 日、黄砂で霞がかった強風の中、朝 10 時から今年のおいでやすは始まりました。

毎年恒例となった、油小路通の本能に咲くのれんの華スタンプラリー。メイン会場となった本能自治会館でのマイキモノプロデュースと染めの体験工房。高齢者福祉施設 1 階では匠の実演コーナーと生け花の展示。職人さんの公開工房ツアー。それらに加えて今回初めて地域マンションにものれんをかけました。

催しを 1 つずつ見ていくと、油小路通にかかる日本の伝統色 40 色ののれんの下には、その色の読み方がわかるよう、ひらがなのスタンプが押せるようになっています。そのスタンプを押す台が今回リニューアルされました。以前のものは小さくて低かったですが、腰の高さまで引き上げられ、頑丈に作られています。そのため着物を召された方・高齢者・子どもたちすべてに配慮されたやさしいスタンプ台となりました。マイキモノプロデュースには前日までに 1 組 2 名の予約があり、当日はその方達以外に 8 名の方が本能自治会館 1 階の和室に足を運び、着物の誂えについて話しをしていました。前回行われた秋のおいでやすと比べると、この企画に足を運んでくださった方が多かったです。着物自体にも、それを一から作るということにも興味をもつようになった方が増えていることの表れのようながしました。本能自治会館 2 階で行われていた染めの体験工房では 15 名の方が絞り染めの帯揚げを制作していました。正絹の白生地に青花ペンと呼ばれるペンで下絵を書き、その下絵に従って縫い、糸を引っ張りギャザーを作るという工程です。各々好きな色に染められるようでしたが、当日は利休色、鳩羽色のグラデーションを好む方が多かったみたいです。匠の実演コーナー、生け花の展示があった高齢者福祉施設 1 階ホールが、今回靴を脱がずにそのまま入れるようになりました。そのため車椅子の人も含めたくさんの出入りがあり、匠である職人さんとも積極的

に話しができているようでした。そんな賑わいをみせた同会場の生け花の展示では、猫柳や彼岸桜・小さな赤い木瓜（ぼけ）の花など、見た人に春の訪れを感じさせる作品が多く見られました。公開工房ツアーには総勢 71 名もの参加があり、中には外国の方や遠路はるばる鹿児島から来場された方、今回で 3 回目というリピーターの方、お茶や舞などをしている伝統文化に関心の高い方も来場されていました。今回から再びこの企画に参加した工房があります。黒染の馬場染工業です。4 代目ご主人の体の不調もあり、4 年のブランクを経た後今の 5 代目が参加に踏み切りました。奥の工房に行くまでの小路には、おいしい水の井戸があります。この町内にはかつて、千利休も利用していた“柳の水”という名水の湧く井戸があったのですが、その水は飲みやすいようで、公開工房でここを訪れた方は、持っていたペットボトルに汲んで帰るほどでした。ここの工房では、366 日の花個紋を利用して、手ぬぐいにはおいでやす当日（3 月 21 日）の個紋として“枝彼岸桜”の絵付け体験も行っていました（馬場染工業 HP☞ http://www.black-silk.com/ ）。体験した方は、自分で絵付けをした手ぬぐいを見て非常に喜んでいるようでした。これで公開工房は全部で 7 軒になりました。

今回新たにマンションと本能ギャラリーに 7 つののれんをかけました。これらはデザインから染め上げまで、高倉小学校に通う子供達とその親御さんが本能の職人さんに手伝ってもらいながら、約 5 ヶ

月ほどかけて完成させた逸品です。当日は風が強かったため、のれんは翻っていたり下に落ちていたりと、歩いている人の目に留まるような形で維持するのは大変な状況でした。しかし子供達が制作したのれんは、バラエティに富んでおり見た人を楽しませたことでしょう。

春のおいでやすは毎年八坂婦人会の協力のもと、おいしい甘酒も振舞われます。しょうがはおろしたてで風味良く、来場者・スタッフともに冷えた体を温めることができました。

今回で秋春通算 18 回目となったこのおいでやす染めのまち本能の催しは、天気のせいもあったのか参加者は前年を下回りました。しかし、一人ひとり興味・関心のある方達が来場され、染めや着物のことを知る良い機会になっただろうと思います。それでもここ 2,3 年参加者が減っているという事態とこれからの本能を考えると、次回の秋のおいでやすからは何か新しい策を考えるべきなのかもしれないですね。

（立命館大学　中谷芽衣奈）

ご協力、ありがとうございました

敬称略

中東盛染工〔型友禅〕　引染みつい〔引染〕　鹿島紋章〔紋上絵〕　多田商店〔袴仕立〕　高岡下絵〔創作作家〕
印染工房土山〔印染〕　馬場染工業〔黒染〕　片岡信〔京縫刺繍〕　岡田典明〔京野菜細工〕　福本義孝〔模様糊置〕
園寿一〔帯揚げ指導〕　坪内三郎〔帯揚げ指導〕　西村正一〔帯揚げ指導〕
八坂婦人会〔甘酒〕　池坊本能クラブ〔生け花〕　芝和ミシン〔和装小物販売〕
アベルティ堀川東（山田町）　ルネスピース四条烏丸（蟷螂山町）　アパガーデンスクエア四条烏丸（蟷螂山町）
ファヴィエ四条西洞院（蟷螂山町）　エテルノポッソ（空也町）　グランドール四条烏丸（空也町）

今回、「おいでやす染のまち本能」にご協力下さった工房のみなさまをはじめ、匠の実演コーナーのみなさま、染の体験工房のスタッフの方々、のれんの里親になって下さってるご家庭の方々…また、今回、親子でのれんワークショップで制作したのれんを掛けさせて下さったマンションの住民のみなさま、そして何よりもこのイベントにご理解とご協力をいただいた学区民のみなさまに、この紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

（本能まちづくり委員会委員長　杉下浩教）

三条の町家キャンパスお披露目

三条通堀川東入ル橋東詰町の小妻邸での町家キャンパスお披露目の会が、2 月 13 日午後開かれました。

小妻邸は明治期に建てられたかなり大きな町家です。京都工芸繊維大学大学院建築リソースマネジメントコース（中川理教授）が、文科省採択大学院教育改革推進プログラムの支援で、昨年秋から借りておられます。

お披露目会は、古い建物の再生をされている建築家円満字洋介氏の指導も受け「町家を楽しもう」をモットーに、３班に分かれて、半年間調査・体験・活用を試みた学生達の結果発表会でした。

１班は、建具班。しつらいを工夫する意味で、夏場の建具を考案しました。地元で調達できる紙や竹、紐を使って４種の建具を作りました。光線の通り方や表裏・開閉の具合で模様が変化し、部屋のイメージが違ってきます。

２班は、のれん班。古地図を調べ、まち歩きをして地域の特性を探りました。その結果、まちによくのれんが掛けられていること。直ぐ近く（越後神社）に京染発祥の地がり、染めとは切り離せない土地であることがわかり、印染杉下さんの協力で、のれんと手拭をデザイン制作しました。町家のファザードは垂直・平行のイメージですが、矩形ののれんを、斜めに切れ味よく色分け。左上をグレーの京都工芸繊維大学部分。右下を紺色の町家部分とし、その隅に小妻邸の玄関の照明をデフォルメしたロゴをオレンジ色でアクセントに入れたものです。手拭もほぼ同じデザインです。斬新でいいものができあがりました。町家キャンパスイベント開催日に玄関先に掛けられているのをご覧下さい。

３班は、おくどさん復元班。長く使用されていなかった竈を家主さんに開けてもらい、おくどさんを使ってのまかない体験。煙を出す煙突がないので、薪ではなく炭を使って火を起こし、留学生の混じる国際チームはミートボールスパゲティ、日本人チームはおでんを前夜泊り込みで作りました。食材は三条会商店街で調達。お店の人達とも交流。「ここは何でも揃って便利！」との感想。竈は昔のように、お鍋を釜にすっぽり入れて調理すると熱回りが速く、意外と火力が強いことがわかったそうです。お料理のふるまいを受けた参会者は舌鼓を打ちました。

事業仕分けの関係で資金は乏しいそうですが、この町家を３年間借り、新しい物の建築よりはむしろ古い建築物の使用再生を教育する教材にしていこうという計画で、色々な部門の先生方と国際的なシンポジウムを開いたりする場にもしたいとのことです。

しんと静まり返っていた町家が、活気を取り戻したようでした。杉下委員長から、「今年の夏は是非、奥座敷から格子越しに見える還幸祭を」との、より一層「町家を楽しむ」法の指南がありました。（N 村）

まちづくりパネル展　4月5日(月)～17日(金)開催

平成21年度「中京区にぎわいのあるまちづくり支援事業」の補助金交付対象事業となった、8つの事業内容を紹介したパネル展が中京総合庁舎1階区民ホールで開催され、本能まちづくり委員会の「親子で染め隊ワークショップ」もその一つとして展示されました。

この支援事業は、区民の活力と自由な発想が最大限に生かされた取組に補助金を交付し，区民主体のまちづくり活動や事業を支援するものです。今回は、「三条通りお神輿祭り」などお祭りのテーマと小学生や幼稚園児との連携テーマ多かったのですが、木屋町共栄会の高瀬川の石標建立や「中京花とみどりの会」の取り組み等も紹介されました。

本能まちづくり委員会は、「親子で染め隊ワークショップ」と題し、高倉小学校スマイル21プラン委員会と共催して行ったワークショップの説明と全4回の活動を写真とともにパネル展示し、横に親子で制作した作品の写真を掲示しました。(T・M)

新住民、地域への思いは…　2009年度 乾ゼミ丸ごとシンポ　2月6日 京都市景観･まちづくりセンター

本能まちづくり委員会の若い力となっている立命館大学産業社会学部乾ゼミ生、本能班を始め梅津(右京区)・春日(上京区)・真野(神戸市長田区)の4つの班が地域のまちづくり活動に参加しています。3回生の4月から本格的に各地域の活動に参加し、住民と共に考え、汗を流すことから“学ぶ”という姿勢をとっています。地域活動の中での発見や気づきから課題を見つけ、更に実践・分析・論証、それを論文化したものをプレゼンテーションする機会が毎年2月に行われる「乾ゼミ丸ごとシンポジウム」です。

(左から)東翔太郎, 安本有佳里, 山﨑達哉, 若草光, 坂野梓(敬称略)

本能班5名＝写真＝は「本能学区における新住民の現状と参加状況～お友達のお友達大作戦～」と題し、新住民とまちづくり委員へのヒアリング調査から、地域と地域活動に対する意識と展望を報告しました。新住民のヒアリング調査対象者は昨年のまちづくり委員会主催の行事参加者と、まちづくり委員からの紹介者、計12名(11世帯)で、2009年11～12月に行われました。〔※〕

地域活動(イベントを含む)に参加するきっかけは、ポスターや地元住民からの声かけで、子どもを介しての参加もありました。陸上クラブや消防分団で定期的に顔を合わせるうちに、地域での「居場所」ができてきたという方もおられました。これは調査対象が行事に参加されたという、いわば積極的な動機での方々だからかもしれません。マンション住民の中には町内会や地域交流をそれほど重要には感じていない人もいるかもしれないとのことです。まちづくり委員会を含む本能の地域活動に関しては、昔からのつながりで結ばれた人達(旧住民)がその活動の中心となっているので入りづらい面もあるが、何かのきっかけで声かけしてもらうことによってその距離も縮まるとのことです。

またまちづくり委員(6名)のヒアリング調査からは、「新住民との交流を活発に」という観点から、新住民向けのイベントの企画や声かけ、そしてボランティアスタッフとしての役割分担を明確にしたいとの考えがみられました。そして新住民同士の横の繋がりができて、いずれは地域活動の主体的な担い手となってもらうことを願っている、とのことです。まずはまちづくり委員からの声かけと新住民が主体的に地域活動に係わっていける環境作り、そして新住民同士の繋がりへと進めていくことでこれからの本能学区の地域活動がより活発になると結んでいます。

本能班以外のゼミ班からは公園コミュニティーや子どもサロン、町内会に関する報告がなされ、会場の地域関係者からは感想や質問が飛び交い、予定時刻をかなりオーバー。

ゼミ生発表の後は、まちづくり関係者を交えてのパネルディスカッション、司会の乾先生からは「学生が地域に入るとき」というテーマが出され、意見交換が行われました。毎年変わる学生の引継ぎの問題、学生は指示されてから動くべきか・その前に動くべきか等、様々な意見が出ました。また地域役員の高齢化の問題、最後には「人の生き方の中に“地域”がなくなってきているのではないか」という重い意見も上がりました。

4時間余りに及ぶシンポジウムを通し、本能学区に限らず地域活動やまちづくりは課題の多いものであり、あらゆる世代と多様な価値観の交流が必要であると感じました。私達にまちづくり活動の気づきと課題を提供してくれた乾ゼミ「企画系」男子と「調整系」女子の皆さん、本当にありがとうございました。これからもまちづくり委員会でのフィールドワークで“地域活動の潤滑油”となってください。本能学区は体験･知見の宝庫です。(ゆ)

※ 内訳は男性6名･女性6名、年代別では30代3名･40代7名･50代2名、居住形態はマンション9世帯・戸建て2世帯、10世帯は夫婦と子ども･1世帯は夫婦のみ。

第9回本能ものしり講座　**「遺跡と博物館で巡る考古学の旅」**

これであなたも考古学者?！　エジプト, 中国, 新大陸の古代遺跡　その隠された謎に迫ります

日時：5月25日(火) 午後7時30分 ／ 場所：本能自治会館2階会議室

講師： 京都文化博物館 主任学芸員　南 博史氏

ひとりごと ◎新年度になりました。本号は、頑張っている学生さんたちの新鮮さをお楽しみください。(N村)